

ほっかいどう NIE 通信



Newspaper in Education

発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

道推進協 10 年度総会

北海道 NIE 推進協議会の本年度総会が5月15日、北海道新聞社で開かれ、新会長に同協議会前コーディネーターの高辻清敏氏(70)を選び、日本新聞教育文化財団の実践指定校に42校を内定した。10月の NIE 研究大会開催などの活動計画も決め、小、中2校の実践報告を行った。

総会には、道教育庁学校教育局高校教育課の赤間幸人主幹、札幌市教委学校教育指導室の工藤真嗣指導

主事ら来賓と、本年度の道推進協の独自認定分を含む40校あまりの担当教諭らが出席。在任6年で今回、会

新会長に高辻氏

新規実践校を紹介

長を退く山田家正氏が退任の報告を兼ねてあいさつした。

山田氏の後を継いで新会長に就任した高辻氏は「家庭や地域、生涯教育の分野の活動を広げ、『北海道21世紀型活動』として全国に発信しよう」とファミリィ・フォーカスを重点に据えて取り組む考えを表明、一層の結束を呼びかけた。新たに実践校として加わ



2010年度北海道NIE推進協議会総会

つた9校も紹介され、浦幌町立厚内小の阿部英一教頭(写真左から4人目)が代

表して「新聞を活用し、生きる力や学力を育てていきたい」と抱負を述べた。本年度の活動計画には、全道9カ所各学区セミナーを開くほか、10月22日に第15回 NIE 研究大会を開催することなどが盛り込まれた。
新たな実践指定校は次の通り(かっこ内は代表者)。
▽浦幌町立厚内小(阿部英一)▽鹿追町立鹿追小(石川直人)▽札幌市立米里小(森田雅哉)▽剣淵町立剣淵小(菊地浩之)▽砂川市立砂川小(北河剛治)▽北見市立小泉小(永井啓)▽旭川市立常盤中(小林直樹)▽由仁町立三川中(大島恵一)▽苫小牧西高(浦川雅智)

北海道 NIE 推進協議会の会長を仰せつかりました。今後、皆さまには何かとお世話になりますのでよろしく願います。

新聞は「教材の宝庫」です。古今東西あらゆる分野の最新情報が網羅され、毎日、信頼できる情報が届けられる。紙面は新書本1冊分以上で社会や人間関係の問題、解決策、時事問題、地域

と信頼度は高く評価されている。公共的・文化的使命を果たしている新聞は、どこでも容易に安価に入手でき、今を生きる人間にとって最高の贈り物である。特に学校では、新聞を

い。教室に新聞を取り入れると授業風景が変わり、個性を生かす場が生まれる。子供の生活や体験と直接結び付いた問題を季節感、郷土感、親近感などの特質を生かし教材として再構成

作業すること、より良い社会性がはぐくまれ、幅広い人間教育ができる。今後10年の学校教育の方向性を示した新学習指導要領には「言語活動の充実」が重視され、解説書に「新



北海道 NIE 推進協議会会長

高辻 清敏

連携し新聞力生かそう

写真、グラフや図表を載せて理解しやすく工夫され、知的好奇心を喚起する記事が満載である。記事は社内

「生きた教材」として日々活用している。教科書は資料が古く現在の生の姿が見えにくい。最新のデータを

することにより、子供の主体的な学習が保障される。学習活動が活発となり、授業の活性化が図られる。新聞を媒体として子供同士が話し合い、思考を巡らせて

聞」の活字が多く見られる。NIEへの関心や期待がますます高まってきた。子供たちだけでなく、教師の変容も大きい。記事でどんな目的でどのように活

用するかの判断は教師の工夫、努力にかかっている。教材感が深まり、記事選択眼が厳しくなる。NIE活動は授業力を高め、学ぶ人としての教師、成長・発達する人としての教師の自覚と自信が培われ、他者評価も得られる。

道推進協総会で実践報告

記事読み考え整理 細川教諭
社会参加意識生む 斉藤教頭

道NIE推進協の総会で
行われた実践報告では、岩
見沢市の細川奈美恵教諭と
札幌市立真栄中の斉藤裕香
教頭がそれぞれ取り組んだ
事例を発表した。

岩見沢市の細川教諭は、
前任校だった滝川市立東小
6年の担任クラスで「学ぶ
意義」「臓器移植」「夢の実
現」などの記事をもとに自
分の考えを整理し、新聞づ
くりにつなげる学習例を發
表した。



道NIE推進協総会での実践報告する細川教諭(左)と斉藤教頭

に言われても決して夢を捨
てず、遂に実現させた体験
を語って聞かせ、子どもた
ちの意欲が芽生えた様子を
紹介した。

また、札幌・真栄中の齊
藤教頭は、前任校の厚別中
の実践で、いわれなき差別
に苦しんで来たハンセン病
患者の思いやハドソン川で
奇跡の不時着を成功させ、
乗客全員の命を救った機長
のエピソードを紹介した記
事を使い、生徒たちに社会
参加意識が芽生えたこと
や、新聞コラムの感想を教
師が添削することで次第に
考えをまとめる力がついて
いく様子を報告した。

新会長に坂田氏

道NIE研が総会
道内の教諭で組織する
北海道NIE研究会の20
10年度の総会が5月15
日、道新本社で開かれ、事
業計画を決め、新会長に札
幌市立新陵中学校長の坂田
三氏を選んだ。事業計画と
新役員は次の通り。

NIE実践奮闘記

社会科学を教える中で、
年々社会の動きに興味、
関心を持つ生徒が少なく
なってきたと、感じて
いました。

山崎健太郎



立内町黒松
教諭白井川

中学校がNIEの実践校
に認定されるに当たり、
新聞のアンケートを行っ
たところ、社会事象など
の記事を見る生徒は3割
弱しかいない実態が明ら
かになりました。

社会に関心持つ子倍増

そこで、新聞がごく身
近な存在として感じても
らうことを意識して取り
組みました。

公民では家族について
考える場面で「赤ちゃん
ポスト設置」のニュース
映像をまず紹介し、その
後新聞の解説記事の読み
取りをさせることを行
いました。

最後に再びアンケート
とった結果、社会の動き
に目を向ける生徒が6割
にも倍増しました。

このように新聞は、子
どもたちの興味関心の幅
を広げてくれる、素晴ら
しい教材だと思います。

まず、生徒たちが最
も集まる場所に新聞コー
ナーを設け、自由に読め
るようにし、授業では教
室に毎時間新聞を持ち込
み、始めに短く記事の紹
介を行いました。

日常生活をちよつとし
た取り組みを継続するこ
とで、生徒が新聞に触れ
ることを当たり前の習慣
となるように心掛けまし
た。

は、心情的な部分からの
賛否の意見が多く出まし
た。ところが、記事を読
み取らせた後の感想で
は、施設の立場からの意
見や、海外の事例を基に
した意見、賛否を超えて
自分の将来に目を向けた
意見などが出ました。

道NIE推進協 2010年度役員 (6月25日現在、敬称略)

- 顧問 高橋教一・道教育委員会教育長
- 同 北原敬文・札幌市教育長
- 会長 高辻清敏・天使大講師(非常勤)、日本NIE学会理事
- 副会長 吉田一昭・道教育庁学校教育局長
- 同 谷山正司・札幌市教育委員会学校教育部長
- 同 坂田惠三・北海道NIE研究会会長
=札幌市立新陵中学校長
- 同 舟越洋二・北海道十勝新聞教育研究会会長
=鹿追町立鹿追小学校長
- 同 三好則男・北海道新聞取締役経営企画室長
- 幹事 渡辺雅春・毎日新聞北海道支社報道部長
- 同 江渡悦正・共同通信札幌支社長
- 同 角木正文・室蘭民報札幌支社長
- 同 黒田正一・北海道新聞NIE推進センター長
- 同 千葉光宏・朝日新聞北海道支社報道センター長
- 同 新海英孝・日本経済新聞札幌支社編集部長

- 10年度の総会が5月15日、道新本社で開かれ、事業計画を決め、新会長に札幌市立新陵中学校長の坂田三氏を選んだ。事業計画と新役員は次の通り。
- 「事業計画」▽第1回NIE実践交流会「夏季研修会」8月10日14時、道新NIEプラザ▽第15回北海道NIE研究会大会 10月22日13時30分、札幌市立向陵中▽第2回NIE実践交流会「冬季研修会」2011年1月11日14時、道新NIEプラザ
- 「新役員」▽顧問 日下部憲一(北海道新聞NIE推進センター)コーディネーター
- ▽会長 坂田惠三(札幌市立新陵中)▽副会長 上村尚生(札幌市立はまなす幼稚園) 逸見直和(同・清田緑小) 豊島義明(同・高)
- 羊丘中) 毛利慎晴(札幌市立幌西小) 原努(同・平岡中) 加藤一郎(同・真駒内曙中) 高瀬敏樹(札幌旭丘高)▽道央支部長 荒島晋(札幌市立向陵中)▽道南支部長 深沢昌明(函館市立神山小)▽道北支部長 菊池安吉(旭川市立光陽中)▽道東支部長 野上泰宏(帯広市立第四中)▽監査 平岡弘之(札幌市立共栄小) 一木一(同・栄町中)▽事務局 山田秀哉(同・八軒小)▽事務局次長 檜克博(同・三角山小) 結城学(同・篠路西中) 工藤幹男(札幌開成高)▽研究部長 菅原隆司(札幌市立あいの里西小)▽研究副部長 伊達峰史(同・屯田中央中) 松沢剛(札幌藻岩)

ゼミ形式で環境考える

新聞の生きた情報に接し、環境教育や学習ゲームで社会で求められる人間づくりを目指す静内高商業科の授業をみた。答えを覚えるだけの、教科書中心の学習から、「自分ならどうする」という主体的考え方を身に付ける「環境マインド」の授業。将来のエコリーダー育成を目指す意欲的な取り組みだ。(北海道新聞NIE推進センター委員 大井一樹)

時間教えている。生徒は4人だけだが、2、3年生による共通選択科目のため、来年度は増える見込。担当の村中幸一教諭は「少ない人数によるゼミ形式なので密度の濃い、充実した授業ができる」と自信をの

新ひだか・静内高



授業で世界の環境について説明する村中教諭と、耳を傾ける生徒たち

生きた情報使い主体的に

ぞかせる。5月13日の授業は2年の小田篤志君、山崎夏実さん、竹内加奈さんが、同教諭の前任校・士別商高で生徒が製作した環境問題のDVDを見た。続いてリオの「地球サミット」(1992年)で世界の指導者を前に地球環境保護を堂々と訴えた12歳の少女セヴァン・スズキの「伝説のスピーチ」を1人ずつ交代で読み込み内容を考えた。村中教諭は「生徒が主体的に学習する姿勢を身につける社会の一員として納得できる答えを見つけるところにたどりつきたい」と期待する。環境問題はオゾン層破壊から水不足、放射性廃棄物、ごみ問題など、範囲も広い。

1年かけ成果まとめる

同教諭がもくろむのはそうした環境問題に強いエコリーダーの養成。企業の環境技術を生かした商品開発、サービス提供などを考えていくエキスパートたちを育てたいという。授業は日経新聞のほか、毎日新聞の記事のスクラップから始め、1年間かけてレポートをつくる。それを年度末にキャスター、リポーター、コメンテーターのロールプレイ方式で成果を発表してもらおうとしている。途中、省農薬などで環境事業と積極的に取り組む企業アレフの見学など、校外活動も取り入れ、生の情報に接する機会を増やす。生徒たちは「環境のことはよくわからなかったけど、興味がある。これからです」と意欲的。村中教諭は「世の中が見えている子は目標を見つけやすい。新聞を使って、これまでも違う学習意欲を持たせることができれば」と話している。



北海道NIE推進協議会が毎年刊行している実践報告書「教育に新聞を」の2009年度版が出来上がった。写真。A4判、291ページ。



活用事例参考にして

希望する学校と教諭には無料配布する。NIE実践校の指定を受け、新聞の無料提供などでNIE活動と取り組んだ09年度の小中高は過去最多で全国一の55校。担当教諭が独自に編み出し、取り組んだ実践例、新聞活用事例などを収めている。02年度からのバックナンバーも残部があり、無料提供する。希望者は協議会事務局(北海道新聞社内)011・210・5802へ。

09年度実践報告書が完成

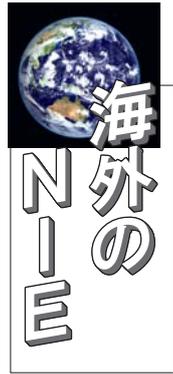
熊本で全国大会

7月29、30日

日本新聞教育文化財団主催の第15回NIE全国大会は7月29、30の両日、熊本市で開かれる。大会テーマは「学校から社会へ」学びを深め、暮らしに生かせるNIE。NIE実践者や関係者を持つ教諭、新聞関係者を対象に、記念講演やパネルディスカッション、各分科会の公開授業、実践発

表、ワークショップなどを、ワークショップなどを行。メイン会場は崇城大学市民ホール。ほかに熊本市国際交流会館、熊本交通センターホテルも使われる。初日の7月29日午後1時から開会式。引き続き落語芸術協会会長の桂歌丸師匠による記念講演「笑いのある人生」や、地元高校生による郷土芸能「天草ハイヤ踊り」が披露される。基調提案のあと、小、中、高、大、生涯教育の公開授

業や実践発表、研究討議などを行う。このあとパネルディスカッション「学校図書館の課題と展望」新聞活用に向けても予定している。2日目の30日は同じ形式の公開授業、研究討議、発表のほか、パネルディスカッション、特別講座もある。参加は有料で、6月25日(金)必着で希望を受け付ける。問い合わせは同財団NIE部(044・661・2031)へ。



平成20年8月24日、われわれ21人は成田より一路オスロへと飛び立った。日本新聞教育文化財団の募集で全国から集まり、それぞれNIEに対する思いや持論、目的を持つての視察であった。

ノルウェーでは若い読者の育成に力を入れていた。オスロ郊外にある新聞社ドラメンス・ティンダータ紙の施設メディア・ラボ。最新機器を駆使した先端のNIE施設で高校生たちが携帯端末を使って情報を集め、協力して記事にまとめるプログラムを体験するさまは圧巻だった。

このような施設が同国に6カ所あり、北欧全体では10カ所以上ある。スモーレンス・アピース紙ではジャーナリストを手塩にかけて育てる試みが続けられ、地元学生を起用して、週1回、あるページを任せている。一定レベルを維持する試行錯誤を重ねながら毎週の編集会議を進めていく、たいへんな作業。しかし、学校生活と両立できるのは、学校・社会から認知され、「誇り」を持つて取り組む場

ノルウェー

最新設備使い記者体験



切り抜き新聞をつくるノルウェーの小学生たち

与えられていることに尽きると感じた。小学校は3、6、10年生で新聞を使うカリキュラムを定め、新聞社は授業で新聞活用を常に呼びかけているとのことだった。別の新聞社では6校の小学生在年2回、一般紙の記事をつくって回し、新聞社と学校が協力し合って若者を新聞に近づける積極的な取り組みが現在のノルウェーであり、それはノーベル平和賞授賞式を取材し、ウェブ上の新聞に配信する中学校があることにも表れて



フィンランド

朝読む習慣 読解力育む

※PISA=経済協力開発機構(OECD)生徒の学習到達度調査

編集後記

○…携帯機能の、驚異的な進化の究極ともいえる「秘密兵器」が登場した。アップル社の多機能携帯端末「iPad (アイパッド)」は、さまざまな情報に瞬時にアクセスできる大きなディスプレイが魅力。一方、アマゾン社もキンドルDXの爆発的な普及に満ちている。
○…これでは落ち着いて新聞の利点など説く状況ではないな、とつい弱音を吐きたくなる。しかし、だからこそである。「もしこの世から新聞や雑誌が消えてしまったら、実は私たちは歴史を失うことになる」(6月1日付朝日新聞文化欄、評論家坪内祐三氏)と現状を憂う声に賛同したい。
○…当協議会の定期総会で体制が一新した。会長に就任した高辻清敏氏はNIEに最も通じたコーディネーターの出身。同会長の誕生は協議会がさらに変ぼうを遂げる可能性を秘めている。新会長の中には様々なアイデアがある。小、中、高校での新聞活用が一段と進む中、その手腕に、大いに期待したい。(大)

いた。次の訪問国フィンランドでは、ヘルシンギン・サノマツト紙のマルチメディアセンターを見た。年間7000人の生徒たちが授業の一環として利用する、何ともうらやましい活動。
「フィンランドは子どもが新聞を読む比率が高い。それは親が毎朝、新聞を読んでいるから。子どもは親の背中を見て育ち、朝起きたら読むことを習慣的に学ぶ。それを特別意識してこなかったが、子どものPISA(※)型読解力の高さが親はあらためて重要性を認識したのでは」というフィンランド新聞協会の担当者のお話には説得力があった。
児童・生徒に体験させ、褒めて自信を持たせる北欧流の教育の温かさ、真の豊かさ、人間らしさが根底にある。そんな北欧のNIEに学ぶものは多く、且つ大である。(第10回海外NIE事情視察団長・大阪市立野中校長 安田陽子)

お知らせ

初の親子新聞教室 8月3日に札幌で

当協議会主催の「夏休み親子新聞教室」が8月3日(火)午前10時から正午まで北海道新聞社北1条館2階A会議室で開かれる。新聞を通じて社会の動きに関心を持ち、家族とコミュニケーションをとりながら自分との関わりを考え、社会性を身につけてもらう試み。家族と共に新聞活用に取り組みファミリーフォーカス事業の一環として小、中学生と保護者を対象に初めて企画された。教室では、興味を持つ記事や見出し、写真などを、自由な視点で切り抜いてスクラップ帳を作る。道NIE研究会の先生がアドバイザー役として指導、夏休みの自由研究にも使える内容にする。希望者は住所、氏名、学

校名、学年、電話番号、保護者名をはがきかFAXで、7月16日必着で申し込む。参加は無料で、先着50組まで。当日は、はさみ、のり、筆記用具を持参する。申し込みと問い合わせは、〒060・8711 札幌市中央区大通西3、北海道新聞NIE推進センター 011・210・5802 FAX 011・210・5826へ。
函館セミナーで 公民の公開授業
当協議会主催の第9回NIE函館セミナーは7月16日(金)午後1時半から函館市立五稜中(函館市田家町5-17)で開かれる。川端裕介教諭が3年社会科・公民分野で公開授業を行い、実践報告もある。セミナーは無料で、参加申し込みは協議会事務局へ。報告者は次の通り。
◇函館市立神山小・深澤昌明教諭▽北斗市立上磯中・岩本宜之教諭▽函館稜北高・藤島尚子教諭